



令和8年度大学入学共通テスト

1月17日(土)・18日(日)に行われた「令和8年度大学入学共通テスト」を本校3年(61期)生299人が受験し、今までの学習の成果を存分に発揮してくれました。今後は、国公立大学や私立大学の一般選抜入試に向けて、気持ちを切り替えて受験学習に取り組んでください。今号では、大学入試センターが公表した志願者数等の確定値などを取り上げます。1・2年生の皆さんは、先輩の受験した「大学入学共通テスト」に関する情報をきちんと分析して、自分たちの進路実現に活用してみてください。

【令和8年度大学入学共通テストの志願者数等について】

(1) 志願者数について

志願者数は、496237人(対前年度比1066人増)

※高等学校等卒業見込者(現役生)420311人

(対前年度比5657人減)

※高等学校等卒業者(既卒者)71310人

(対前年度比6336人増)

(2) 共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学数について

利用大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学数は、813大学

※昨年度より、私立大学:11減、私立専門職大学:1増、私立短期大学:15減、私立専門職短期大学:1増

【今年度の特徴】

現役高校生の出願は減少しましたが、既卒者が大幅に増加しました。その理由として、第一志望校ではなく合格を優先して進学したことに後悔し、再受験に踏み切る人が増えたと考えられています。

国公立大学の出願について

61期生の皆さんは、国公立大学一般選抜入試(前・中・後期)や私立大学一般選抜入試の出願を済ませたでしょうか。令和8年度国公立大学一般選抜入試の出願は、前期日程・中期日程・後期日程を1月26日(月)～2月4日(水)の期間内に、同時に出願することになります。特に、今年度は、「大学入学共通テスト」の出願方法が電子化され、各大学の一般選抜入試でも例年とは異なる点もあると思いますので、出願先の大学ウェブサイトから出願方法について必ず確認した上で、確実に行ってください。

国公立大学一般選抜入試に向けて

2月に入ると多くの私立大学で一般選抜入試が始まり、25日には、国公立大学一般選抜入試前期日程が行われま

す。特に、国公立大学の受験に向けては、1月に行われた大学入学共通テストと一般選抜入試の結果を合わせた成績等で合否判定が行われることから、入試日までの受験戦略と、それに基づいて作成した受験学習計画の実施が、とても重要になってきます。そこで、受験直前期にぜひ取り組んでほしいことについて、次のようにまとめてみました。参考にしてみてください。

【国公立大学一般選抜前期入試に向けて】

(1) 受験校合格に向けた戦略を立てる

① 一般選抜入試での目標点を設定する

受験校の昨年度入試における合格者平均点や最低点を調べ、合格するために必要となってくる一般選抜入試での目標点を、大学入学共通テストの自己採点結果や合格者平均点や最低点をもとに考え、その目標達成に向けた約3週間の学習計画を組み立ててみましょう。この目標点が、大学入試当日までのモチベーションになってくれます。なお、合格者の平均点や最低点は、大学のウェブサイト等に掲載されていますので、確認してください。

② 受験校の過去問に数多く取り組む

数多くの過去問に取り組むことで、受験校の出題傾向や難易度がわかってきます。つまり、この取組を確実に行うことで、自らが設定した目標を達成するために「何が必要か」が、明確になってきます。ぜひ、進路資料室を最大限活用して、多くの過去問を収集し、受験日まで突き進んでいきましょう。

③ 達成感を積み重ねる

この入試直前期に現役高校生でよく見られることは、「苦手な問題が出たらどうしよう。」・「知らない問題を解けるようにしておきたい」という不安や焦りから新しい問題集に手を出してしまいがちです。しかし、この時期は「知っている問題を確実に解ける」ことの方が、とても大切です。今まで使用したテキストや模試の問題を徹底的に復習して、「できる」という達成感を積み重ねていくことが、志望校への「合格力」を高めてくれます。特に、10月に行われた記述模試(ベネッセ・駿台、全統)や各大学のオープン模試は、大学入試でよく出題される分野を検討して作成されていますので、何度も解き直すことは重要なことです。

受験対策としての定期考査の重要性

定期考査とは、教科書に載っている内容に基づいた問題で実施されるテストです。つまり、3年生で受験する「大学入学共通テスト」も教科書の内容に基づいて作成されていますので、定期考査に向けてしっかり対策し、テスト返却後の復習を徹底的に行うことは、受験生として高い意識を持っていると言えます。1・2年生の皆さん、2月9日(月)～13日(金)に実施される学年末考査に全力で取り組んでください。

鷹は生きるために飛ぶ

2年3組 担任

今回、62期生の皆さんに空高く舞う鷹について紹介したいと思います。鷹の姿は、力強く、自由で、どこか余裕があるように見えます。しかし、その姿の裏にある生き方は、決して優雅なものではありません。鷹は、生きるために必死で、自分を鍛え、削り、変え続ける鳥です。大学進学を目指す皆さんの今の立場は、この鷹の生き方と4つ重なる部分があります。

①鷹は、低空では生きません。高く舞い上がり、広い視野を持ち、遠くを見渡します。目の前の獲物だけでなく、その先の空全体を見て、生きる道を選びます。62期生の皆さんにも、同じ姿勢が求められています。日々の課題やテストに追われるだけでなく、「どの大学で、何を学び、その先でどう生きたいのか」今ははっきりと答えが出なくても良いと思います。しかし、**考え始めなければ、何も見えてきません。**

②鷹は、獲物を見つけるまで無駄に動きません。空を旋回しながら、静かに、鋭く機会を待ちます。そして、ここだという瞬間を逃さず、一気に急降下します。大学受験も同じです。焦って闇雲に動く必要はありません。しかし、**準備のない者に、好機は訪れません。**高校2年生の今は、基礎を固め、自分の力を見極め、進路情報を集める時期です。それは、飛び立つ前に空を読み続ける時間と重なります。

③鷹は、生きるために爪を研ぎます。爪は獲物をつかむ命綱です。少しでも鈍れば、獲物を逃し、生きていくことができません。そのため鷹は、岩に爪をこすりつけ、時間をかけて何度も何度も研ぎ続けます。皆さんにとっての「爪」とは何でしょうか。それは、日々の授業への集中、基礎問題の反復、定期テストへの向き合い方です。地味で、目立たず、すぐに結果が出ない作業かもしれません。しかし、この作業を怠った鷹が空で生きられないように、**学びの積み重ねを軽視した者は、受験という場で力を発揮できません。**さらに、鷹は嘴を整えることから逃げません。嘴は伸び続けると、かえって獲物を仕留められなくなります。そのため鷹は、**自ら岩に嘴を打ちつけ、折り、削ります。**痛みを伴っても、生きるために必要だからです。学習においても分かったつもりで放置している内容、苦手だからと避けている分野、間違いを見直さずに終わらせている問題はありませんか。それらは整えられていない嘴かもしれません。**一度痛みを伴ってでも、向き合い、修正する勇気**がなければ、次の段階へ進むことはできません。

④鷹は、風任せでは飛びません。追い風を待つのではなく、風を読み、自ら飛ぶ方向を決めます。「3年生になったら本気を出す」「受験が近づいたら考える」それは、風待ちの状態です。目の前の授業、テスト、一日の使い方はすべて、**自分の進路を自分で選び取るための行動**になっているのでしょうか。また、鷹は群れません。最後に空へ飛び立つのも、獲物を掴むのも、自分一羽です。大学受験も同じです。仲間と励まし合うことはできません。しかし、試験会場で問題と向き合うのは、自分一人です。だからこそ、「周りがやっているから」ではなく、「**自分はどうするのか**」を考え続ける必要があります。今は、助走と準備の時間です。鷹が高く飛ぶ前には、爪を研ぎ、嘴を整え、静かに力を蓄える時間があります。皆さんにとって、その時間が**高校2年生の今**です。ここでどれだけ自分を鍛えられるかが、3年生になったときの飛距離を決めます。

大学進学は、ゴールではありません。しかし、自分で考え、努力し、厳しさから逃げずに進んだ経験は、その先の人生を確実に支えてくれます。鷹のように、広い視野を持ち、静かに準備し、生きるために自分を磨き続け、大きく羽ばたきましょう。今、この1年にどう向き合うかが、皆さん自身の**未来を分ける大きな岐路**となります。